

## 国際医療福祉大学薬学部に産学連携による「先端漢方医薬学教育研究センター」を設立

国際医療福祉大学（栃木県大田原市）は、“病気や障害を持つ人も健常な人もお互いを認めあって暮らせる「共に生きる社会」の実現”をスローガンに、患者本位の医療に貢献できるメディカルスタッフの教育を推進している医療福祉の総合大学である。この度、国際医療福祉大学薬学部では、国内の薬系大学で初めて、産学連携による漢方医薬学の教育・研究拠点としての「先端漢方医薬学教育研究センター」を設立した。

現代の医療では、各種疾患の複雑化や多様化に対応すべく、西洋医学のみならず東洋医学の知識や技術に基づいた治療の必要性がうたわれている。例えば、薬物治療の場では漢方薬がその作用機所の解明が進んできたために西洋薬の限界や欠点を補うことが多々あり、両薬併用の有用性に関する認識は今後益々国民の間で高まってくることが予想される。このような医療現場での現状を踏まえると、メディカルスタッフを養成する立場にある大学サイドでは、西洋医学と共に東洋医学に関する教育と研究の体制を充実させることが急務である。この度の「先端漢方医薬学教育研究センター」の設立は、薬学教育が6年制教育に移行したことを契機として、西洋薬学と東洋薬学の融合による新たな薬学教育・研究基盤の構築を目的としたものである。

「先端漢方医薬学教育研究センター」は、「教育部門」と「研究部門」の2部門で構成される。「教育部門」では、従来の薬学教育モデル・コアカリキュラム（日本薬学会）に含まれている生薬学ならびに天然物化学関連の基礎教育に加えて、西洋薬と東洋薬に関する国際薬学史、天然生薬や漢方薬を使用する医療の母体である中医学（基礎理論、各種疾患の診断方法、漢方方剤の種類と適用方法、鍼灸治療）、臨床における漢方治療の実際（漢方薬の服用方法、体内動態、副作用、相互作用）などについてより専門性の高い教育を行う。また、定期的にセミナーや市民公開講座を企画し、現代医療における漢方医薬学の教育・研究の重要性に関する啓蒙活動も実施する。一方、「研究部門」では、科学的根拠に基づいた漢方医療の推進を目的とした基礎研究を実施する。特に、精神科ならびに心療内科領域で使用される漢方薬（抑肝散など）や消化器系領域で使用される漢方薬（大健中湯、六君子湯など）に着目し、薬理学的効果ならびに体内動態の解析、有効な構成生薬成分や生理活性物質の検索、作用機序の考究、西洋薬との相互作用の検討などを実施する。これらの教育・研究活動を通じて、西洋医薬学のみならず東洋医薬学にも精通した薬剤師ならびに薬学者の育成を目指す。

国際医療福祉大学 学長 北島政樹  
薬学部長 武田弘志